



(滋賀県長浜市で開催した「産地越境プロジェクト」より)

シルクのまちづくり市区町村協議会

情報誌の名称の『知・る・く』は、「シルク」のことを「知る」、「シルク」の街を「歩く」という意味が込められており、3つのフレーズを融合させた造語です。

「知」の「口」部分は絹糸をイメージ。同時にシルクの無限大(∞)の可能性も表現しています。

「く」の下部には靴をあしらい、街を歩くイメージと協議会の前進の意味を込めました。

No.14>>>Contents

●産地ブランドマークのご紹介

- (1) 絹白生地の高級品「浜ちりめん」の証「濱マーク印」(滋賀県長浜市)……………1

●会員自治体の情報(シルクに関わるイベントや取り組みなど)

- (1) 産地越境プロジェクト(滋賀県長浜市)……………2
(2) きものの街のキルト展(新潟県十日町市)……………8

《参考資料》

- (1) シルクのまちづくり市区町村協議会・会員一覧……………10
(2) シルクのまちづくり市区町村協議会の設立趣意書……………11

●産地ブランドマークのご紹介

絹白生地の最高級品「浜ちりめん」

(滋賀県長浜市)



(浜ちりめんの証「濱マーク印」)

■浜ちりめんについて

滋賀県長浜市は、西に琵琶湖、東に霊峰・伊吹山を有し、その豊かな自然環境と受け継がれた伝統の技により、古くから上質な絹織物を生み出してきました。

絹織物の最高級品として知られる「浜ちりめん」は、伊吹山の雪解けによる豊富な伏流水を撚糸に使用し、琵琶湖の超軟水を使用した精練により、しなやかに美しく仕上げられます。

浜ちりめんは、八丁撚糸(タンパク質の「セリシン」が乾かないように水をかけながら生糸に強い撚りをかける工程)による美しいシボが特徴で、生糸から織物になるまで、精練を除く全ての工程が機屋各社の一貫作業で行われており、織物設計から製造管理に至る細部までこだわって最高の白生地がつくられています。

■濱マーク印について

濱マーク印は、その白生地が「浜ちりめん」と認められたもののみ押印される証です。

濱マーク印が押印されるためには、浜縮緬工業協同組合の組合員企業(注1)が製織したもので、かつ、精練後の検査基準を満たす必要があります。

注1) 滋賀県内に事業場を有し、縮緬、紬またはその他織物製造業を行う事業者



産地越境プロジェクトについて

滋賀県長浜市では、シルクのまちづくり市区町村協議会の総会に合わせた事業の一環として、令和5年10月13日、14日にシルクのまちづくり市区町村協議会の研修事業「産地越境プロジェクト」を開催しました。

このプロジェクトは、絹の白生地として最高級の品質を誇る「浜ちりめん」の事業者や、地元で活躍するクリエイターらの協力により、協議会の会員である行政職員をはじめ、絹や和装関連事業者、他業種の職人、クリエイターらにも参加いただき、生産施設の見学ツアーやシルク産業の今後について話し合うグループディスカッション等を行いました。

生産施設の見学

事業者の方々のご協力により、以下の生産施設を見学させていただきました。

- ・ 有限会社吉正織物工場
- ・ 南久ちりめん株式会社
- ・ 株式会社タケツネ
- ・ 奥田織物工場
- ・ 浜縮緬工業協同組合精練加工場



(生産施設見学の様子 @浜縮緬工業協同組合精練加工場)

産地が抱える課題を話し合うグループディスカッション

浜ちりめんの生産施設を見学後、グループディスカッションを実施しました。

冒頭、浜縮緬工業協同組合の理事長である吉田氏は、和装業界の危機的状況を訴えた上で、「あらゆる産地、業種、分野で連携し、互いに情報やアイデアを出し合い、個々の産地では難しかった生産や販売の課題を解消していきたい。産地全体で次の一手を探ったり、コラボ事業を考えたりするなど、ものづくりの継承と振興にさまざまな知恵を出していく、今日がその第一歩となれば」と参加者にメッセージを伝えました。



(参加者へ課題提起する浜縮緬工業協同組合理事長の吉田氏)

また、プレゼンテーションでは、産地越境プロジェクトの企画を担っていただいた(株)仕立屋と職人 代表の石井氏から、「産地越境」のコンセプトや、ものづくりの作り手が置かれている現状などについて、思いを語っていただきました。



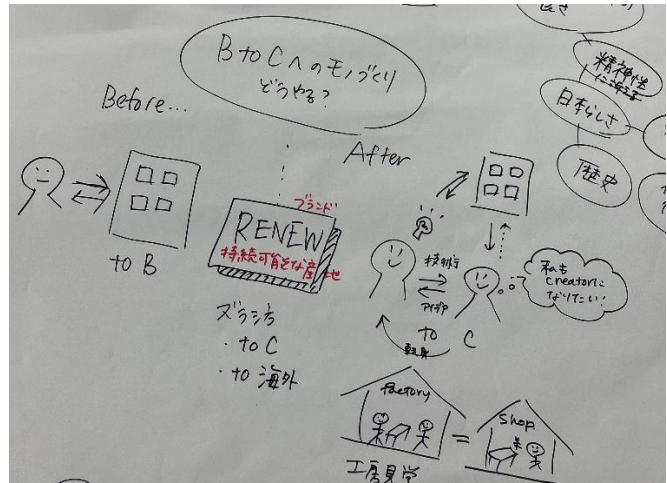
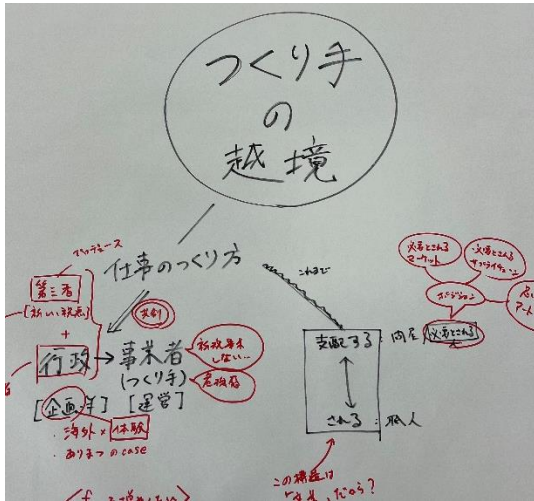
（「産地越境」への思いを語る
株式会社仕立屋と職人 代表の石井氏）

グループディスカッションは、前半・後半の2部で構成し、「つくり手の越境の仕方」や「つくり手とサステナビリティ」の2テーマについて、業種や社会的ポジションなどの垣根を越えて話し合いました。



ディスカッションでは、職人と問屋との関係性、流通や販売におけるルートの転換（BtoBからBtoC、国内から海外への販路拡大）など、これまで当たり前とされてきた体制や価値観等について活発に議論され、終始、和気あいあいとした雰囲気で開催されていました。





(グループディスカッションの様子)

最後は参加者全員で集合写真撮影。



グループディスカッション終了後は、懇親会を開催しました。
 オープンマイクでは、産地の紹介や事業の紹介なども行われ、それぞれ有意義な時間を過ごされていました。



結城紬のネクタイをした長浜市長も、皆さんと一緒に有意義な時間を過ごさせていただきました。

翌日は長浜のまちなかを散策

2日目は、同日に開催された「長浜きもの大園遊会」や、ユネスコ無形文化遺産の「長浜曳山まつり」の山車が移動する姿を横目に中心市街地を散策しつつ、様々な種類の浜ちりめん生地を展示している「浜ちりめん白生地展示会」を見学しました。



浜ちりめん白生地展示会は、長浜の町家をリノベーションした「ビワコピクニックベース」で行われ、着物姿の観光客とのコントラストも相まって、とても風情のある雰囲気でした。



「産地越境プロジェクト」が目指すもの

今、和装産業は、和装需要の減少等により、ピーク時と比較して、市場規模が大幅に縮小しています。

和装の生地とされてきた浜ちりめんは、冠婚葬祭用着物の高級品として選ばれてきましたが、特にバブル後の日本経済が低迷した状況では、需要が急激に縮小しています。

今回、会長市として協議会研修事業を開催するにあたり、浜ちりめんの生産者等に相談したところ、同じような課題を抱えている産地と繋がることで、今後の事業展開のヒントを得られるような場があればという声があがりました。

和装業界は非常に閉鎖的で、他産地はいわばライバルであり、他産地との交流が限られていると感じておられる中で、これまでのように他産地をライバルと見なして一産地だけで考えるのではなく、困っている者同士で一緒に知恵を出し合いたいという生産者の強い思いを感じ取ることができました。

また、和装産業の関係者に限らず、様々なものづくりに携わるクリエイターやデザイナーなども招待し、多種多様な視点で、明るい未来を描くヒントや新たな繋がりを得たいという思いがあったことから、今回のプロジェクトを計画するに至りました。

特に生産施設の見学ツアーは、商品の要といえる自社の技術を他社に見せることになるため、生産者としては、いくばくかの抵抗感を感じておられたことと思います。

しかしながら、産地の壁を越えることは何かが生まれるチャンスと捉えていただき、生産者の皆さまの強い決意のもと、とても前向きな雰囲気にもまれながら開催することができました。

生産者の思いが込められた「産地越境」が、シルク産業や和装業界にどの程度の影響や効果をもたらすことができるのか、今はまだわかりませんが、産地の川上も川下も、行政や生産者も関係なく、垣根を越えてフラットに共通の課題を話し合うことで、次のステージへの第一歩に繋がったのではないかと思います。

伝統的な技術、資源をフルに活用し、世界の動向や現代のニーズにあわせて商品の形を変化させていく・・・。「産地越境」が、そうしたイノベーションのきっかけになれば幸いです。

きものの街のキルト展（新潟県十日町市）

「きものの街のキルト展」が始まると、市街地にはさまざまな色や技法のキルトが飾り付けられます。アーケードを歩きながら、色とりどりのキルトを見たり、ふらりとお店に立ち寄ったり。キルトを鑑賞しながら気ままに楽しく街を歩いてみませんか？

- イベント名

きものの街のキルト展

- 開催時期

毎年概ね5月～6月 ※令和6年は、5月31日（金）～6月9日（日）に開催

- 時間

9:30～16:30 ※予定

- 場所

十日町商工会議所、クロスステッチ、越後妻有文化ホール「段十ろう」、市民交流センター「分じろう」、市民活動センター「十じろう」、市街地商店街各店舗 ※予定

- 料金

衣桁キルト部門入賞作品・フリーキルト部門入賞作品展示会場 入場料 500 円（2 会場共通）
その他 入場無料

- 事前申し込み

なし

- 駐車場

あり（各展示会場施設の駐車場）※市街地商店街各店舗については公共駐車場をご利用ください。

- アクセス

最寄り駅：JR 十日町駅またはほくほく線十日町駅

最寄りインター：関越自動車道 越後川口 IC または六日町 IC ※当市へは車で 30 分程度

- 主催

きものの街のキルト展実行委員会

- お問い合わせ先

一般社団法人 十日町市観光協会

(電話) 025-757-3345 (FAX) 025-757-5150

(Eメール) infotkm@tokamachishikankou.jp

(フェイスブック) <https://www.facebook.com/Kimono.quilt.tokamachi>



シルクのまちづくり市区町村協議会 会員一覧

(令和6年3月現在)

■会員（33団体）

1	山形県鶴岡市	12	新潟県十日町市	23	滋賀県長浜市
2	山形県長井市	13	新潟県小千谷市	24	京都府京都市
3	山形県白鷹町	14	新潟県南魚沼市	25	京都府宮津市
4	福島県川俣町	15	石川県金沢市	26	京都府京丹後市
5	茨城県結城市	16	石川県小松市	27	京都府与謝野町
6	栃木県足利市	17	福井県勝山市	28	兵庫県養父市
7	栃木県小山市	18	山梨県富士吉田市	29	愛媛県西予市
8	群馬県富岡市	19	山梨県西桂町	30	鹿児島県鹿児島市
9	群馬県前橋市	20	長野県岡谷市	31	鹿児島県奄美市
10	東京都新宿区	21	長野県駒ヶ根市	32	鹿児島県龍郷町
11	東京都武蔵村山市	22	長野県安曇野市	33	沖縄県久米島町

◇役員

会 長 滋賀県長浜市（市長 浅見 宣義）
 副会長 新潟県十日町市、福島県川俣町、長野県安曇野市
 監 事 茨城県結城市、鹿児島県奄美市

シルクのまちづくり市区町村協議会の設立趣旨

古来よりわが国に伝わる尊い宝、絹。

絹を用いる産業、すなわちシルク産業は、地域経済の中で重要な役割を果たし、地域の生活や風土に根付いた産業として我々の地域とともに発展してきました。同時に、悠久の歴史の中でこれら産業が培った技術により生み出される製品は、地域文化を育むと同時に、わが国文化の根幹に大きく関わり、地域の価値や日本の品格を伝えるものとして、産業・文化の両面で貢献しています。

ところが、社会・生活環境が急激に変化する中で、現在では資源の枯渇化や人材の不足、市場の縮小による需要減少など、地域のシルク産業の発展に支障が生じているとともに、近代化・平準化の中でわが国固有の誇りある文化の風化が危惧されているところです。

一般的に、シルク製品は、養蚕、製糸、織物、染色など多段階の工程の中で、それぞれに長年にわたって極められた究極の技術が、完璧なまでに調和され完成されます。またそのものづくりは、技術者同士の厚い信頼と連携の上に成り立ち、日本が誇るものづくりの原点ともなっています。さらに、世界においてもシルクは、かつてシルクロードという長大な交易ルートを創造し、産業を活性化するとともに東西文化の交流を育んできています。すなわちシルクは、単なる繊維素材ではなく、歴史的にも経済社会の様々な断面を相互に発展に導く共通のきずなであり、今後においてもシルクを通じた「連携」「国際展開」「産業活性化」「文化交流」などによって、様々な分野の未来に多くの示唆と可能性を与えてくれるものであると確信します。

こうしたシルクの持つ意味を改めて認識し、シルクに関連する産業、またはシルクに関係する歴史・文化を持つ市区町村が連携し、「シルク産業の活性化」や「シルク文化を活用した魅力ある地域づくり」など、シルクの意味を活用して新たな展望を切り開くため、「シルクのまちづくり市区町村協議会」を設立します。

平成22年1月26日



越産 境地

2023/10/13,14

編集／発行 シルクのまちづくり市区町村協議会

発行年月 令和6年3月

【この情報誌に関するお問い合わせ先】

令和5年度シルクのまちづくり市区町村協議会事務局

(滋賀県長浜市産業観光部商工振興課)

〒526-8501 滋賀県長浜市八幡東町632番地

電話:0749-65-8766

メール:syokou@city.nagahama.lg.jp

ホームページ:<https://silktown.jimdo.com/>